

わが「ワクチン記」

昨日 7 月 31 日(土)12 時、大阪中之島の府立国際会議場(グランキューブ)の「自衛隊大規模接種センター」で 2 回目ワクチンを打ち終えた。なんだか、ほっとした。この 2 ヶ月余りをきちんと記録しておきたい。



ワクチン記に入る前に、大阪の新型コロナをすこし振り返っておこう(朝日 29 日朝刊)。大阪府は 3 月 1 日～6 月 20 日の感染を「第 4 波」と位置づける。3 月 31 日の新規感染者は 600 人だったが、4 月 13 日以降は連日 1 千人を上回った。病床確保は追いつかず、重症病床の使用率は 100%を超えた。5 月 4 日の重症病床は 361 床、重症患者は最多の 449 人。92 人が中等症病床などで治療を続けた。

コロナ患者や家族が保健所に電話してもつながらず、救急車も病院に患者を搬送できないなど、連日のように深刻な事態が報道された。まさに医療崩壊である。感染急拡大に対応が追いつかず、自宅などで死亡、重症化する人が相次いだ。五輪が強行された東京では、感染者が激増して、大阪のような医療逼迫から医療崩壊へと事態が急激に悪化しているようだ。大阪も昨日、5 月 8 日以来、再び千人の感染者を記録した。

大阪の医療崩壊による多くの犠牲者は、なにかと持病を抱えている私にとって恐怖を感じさせるものであった。ワクチンについては正直迷うこともあったが、コロナへの恐怖から、早く接種しようとするようになった。5 月中旬、自衛隊大規模接種予約システムの不備が問題になったが、その自衛隊さんにお世話になるとは思っていなかった。それには「わけ」がある。この頃に、パソコンの「ウイルス騒動」に悩まされたことも忘れられない。

5 月下旬、大阪市からワクチン接種券、そのあと「接種予約開始日のお知らせ」はがきが届いた。6 月 7 日 9 時から予約開始ということで、パソコンからアクセスしたが、つながらない。電話はもちろんダメ。地元淀川区の集団接種を選んだのだが、数日経っても予約できなかった。新聞報道によると、各区の大阪市設置会場は地元開業医によるものが多く、受付人数が少ないようであった。

近所のお店のご主人に聞くと、淀川区の会場は予約がとりにくいとのことで、高齢者に予約は大変だと話していた。高齢者ほど、歩いて行ける区内の近くの会場で接種したいが、遠くの会場まで行かなくてはならない。それで私も、かかりつけ医に聞いてみると、うちのクリニックはワクチン接種を行わない。接種後の対応に責任を持ってないからの説明であった。

だんだん焦ってきて、自衛隊の大規模接種センターにアクセスすると、すぐに 6 月 27 日(日)10 時半に 2 人分の予約がとれた。早めに会場に行ったが、すでに大勢の人が来ていた。案内など係の人も多く配置され、スムーズに接種を受けられた。

そして昨日、2 回目接種を済ますことができたが、昨夜から「副反応」に悩まされる。

(2021年8月1日)